

へきけんニュース

ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学函館校

令和5年度北海道へき地複式教育研究連盟 定期総会が開催されました

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長
温泉 敏(美瑛町立美沢小学校長)

令和5年度北海道へき地・複式教育研究連盟の定期総会は、5月12日(金)、ホテルライフポート札幌において、対面式で開催しました。総会ご来賓として、北海道教育庁学校教育局長 川端香代子様、北海道立教育研究所長 中澤美明様、北海道教育大学副学長 玉井康之様をはじめ、北海道小学校長会、北海道中学校長会、道へき複連OB会、日本教育公務員弘済会から7名のご臨席を頂きました。

今年度の活動方針等は下記のとおりで、その方針が決定されました。



1 「へき地性」「小規模性」「複式形態」の3特性を生かした教育の充実を図るための研究活動をより推進する。

(1)第10次長期5か年研究推進計画の5年目の研究に取り組む。

(2)課題別・共同研究の深化と拡充に努める。

(3)第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会finalステージの成功に向けて取り組む。

9月13日(水) 全体会・分散会 洞爺湖町文化センター

9月14日(木)分科会(白老町、苫小牧市、伊達市、洞爺湖町の4校にて公開)

(4)第73回全道へき地複式教育研究大会上川大会1stステージ実施に向けた取組を推進する。

(5)全道、各地区の研究成果を還流する。

2 組織の強化と充実に努める。

- (1)各地区壁・複連との連携、組織の強化を図る。
- (2)事務局業務の効率化と情報・要請活動の活発化を図るとともに、組織体制の改善について検討していく。
- (3)各部活動の連携を密にして、執行体制の見直しを図り、その強化に努める。
- (4)未加盟校及び非複式のへき地小規模校の加盟促進を図る。
- (5)組織検討委員会を継続設置し、組織体制の改善・財政上の諸課題の解決を図る。
- (6)適切な予算執行に努める。

3 教育条件の整備と拡充に努める。

- (1)へき地・小規模校・複式学級を有する学校の一層の条件整備を進める。
- (2)教職員の待遇改善を図る運動を進める。
- (3)新へき地学校等級別指定に関わる調査・要望活動を進める。
- (4)へき地・小規模校・複式学級を有する学校及び地域の課題等の実態把握に努め、その対策について検討を進める。

4 関係機関・関係団体との連携を一層強化する。

- (1)北海道教育委員会、北海道立教育研究所、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター、道教育大学各キャンパス校、道小学校長会、道中学校長会、道へき・複連OB会、道PTA連合会との連携を密にして、研究活動の深化や条件整備、待遇改善に努める。
- (2)「全へき連HP」への寄稿協力および活用の啓発に取り組む。
- (3)各関係機関、関係団体との成果、資料の交流を図る。

中澤美明北海道立研究所所長が講演されました

北海道へき地・小規模校教育研究センター



北海道へき地・複式教育研究連盟の総会の後、中澤美明北海道立教育研究所所長による役員研修会が開催されました。

研修会では「ICTの活用と授業観の転換」と題した講演があり、これからのへき地教育として、ふるさとへの誇り・地域とともにある学校教育に加えて、日常的に繋がる遠隔合同授業や主体的な学びを支援するファシリテーターとしての教師の役割も大きくな

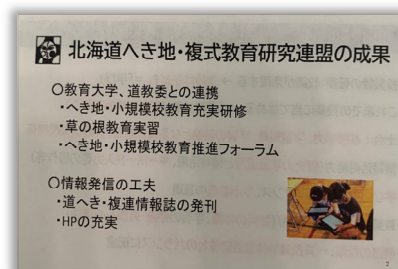
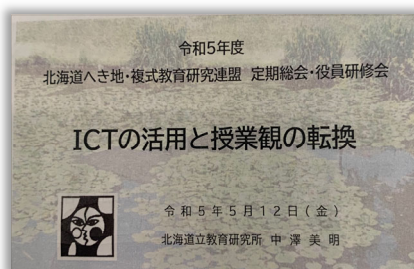
り、教育観や教育方法の転換が必要になるとお話がありました。またへき地校の研修や研究大会のスタイルも、ライブ・ワンモア・ICT双方向交流を含めたハイブリッド型を工夫する必要性も提案されました。これらは学習・教育の大きな転換の必要性を指し示しています。

以下講演の要点を箇条書きで示します。

- ★学習指導要領では、「学びに向かう力」や「どう使うか」が重視されている。そのためには自分の学びを選択・決定し、学び方を振り返って、調整していく姿勢を育てることが必要。
- ★休み時間や委員会活動など子供が自由に使えるように、学校教育の基盤的ツールとして位置づけていくことが重要。
- ★クラウドを活用して、個別最適で協働的な学びを進め、自分たちで学びを進める力を育成していくことが重要。
- ★ICTは、使う方法を限定して指導するよりも、ICTを子ども達に預けて使える所から使うということも必要。
- ★クラウド機能により共同で作業を進めたり、チャット機能を使って全員参加型で共有し合う授業も作ることが可能。
- ★最初に教科の見方・考え方を指導することも重要。
- ★授業中での個別指導計画も必要。
- ★単元計画・授業計画を子供に示して、学習の流れを子供と一緒に確認するという授業もこれから創っていくことが必要。
- ★子供たちが自分のペース・方法で自分たちの授業を創っていくことも必要。
- ★体育なども技術・技能を教えるのではなく、練習の仕方を教えて、自分たちで作らせることが重要。
- ★自分たちで運営するためには、話しを聞く方法などの学習規律や良好な人間関係を基盤として作ることが必要。
- ★わたり・ずらしなどの従来型の指導方法と、自立的な学習指導とのバランスが重要。
- ★探究の学習過程の学習(課題設定・情報収集・整理・分析・協議・まとめ・発表など)が必要で、探究的な活動を使った授業を展開していく。
- ★最終的に子供がいかに自分で学んでいるかをとらえることが重要。



◀ 中澤美明北海道立教育研究所所長



▲当日のスライド資料

2023年長崎大学・鹿児島大学・琉球大学・北海道教育大学連携 へき地・離島・小規模校教育推進フォーラム (兼 第22回北海道教育大学へき地教育推進フォーラム) を開催します！

北海道へき地・小規模校教育研究センター

へき地・小規模校教育研究センターでは、文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育担当）安彦広斉氏をお迎えし、「2023年長崎大学・鹿児島大学・琉球大学・北海道教育大学連携 へき地・離島・小規模校教育推進フォーラム」を以下のとおり予定しています。

4大学の取り組みも紹介しながら、これからの学校教育のあり方について検討する貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。

詳細については、今後当センターのホームページでお知らせします。

2023年長崎大学・鹿児島大学・琉球大学・北海道教育大学連携 へき地・離島・小規模校教育推進フォーラム

「全国的過疎化の中でへき地・離島教育が令和の日本型教育に提起するもの
ー地方の極小規模校教育・教師教育から日本の先端的な可能性が見えるー」

主 催	北海道教育大学 長崎大学教育学部 鹿児島大学教育学部 琉球大学教育学部
主 幹 機 関	北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
開 催 日 時	令和5年7月23日(日)13時00分から17時00分
講 師	文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育担当) 安彦 広斉 氏
演題(仮題)	「人口減少社会における学校教育のあり方と 地方の教員養成教育への期待」
開 催 方 式	オンライン及び対面(100名)
対 面 会 場	北海道教育大学本部棟3階会議室(札幌市北区あいの里5条3丁目1-3)
参 加 対 象	日本教育大学協会加盟大学・全国大学教職課程協議会加盟大学 全国都道府県教育委員会・全国へき地教育研究連盟加盟校
お 問 合 せ 先	北海道教育大学教育研究支援部連携推進課(担当:小林) Tel:011-778-0942 Fax:011-778-8376 E-mail:crc@j.hokkyodai.ac.jp